



原子力機構

技術交流情報

No.19

平成22年12月14日発行



敦賀本部



【技術相談】アグリビジネスを目指して Part.4

おおい町のむらの達人「スイート木の実」の皆さんから「栃の実のあく抜き」に昔から最適とされるナラの木(堅木)の灰を使用しているが、最近では、なかなか手に入らず困っている。代用に重曹(炭酸)を試してもみたが思うような効果が得られず思案している。薬剤を使わずに昔ながらのやり方で、あく抜きする方法がないか。」との技術相談がありました。

機構では、あく抜きに必要な、灰の成分・珪酸・カリウムの含有量などを調査すると共に、現在、むらの達人の皆さんと自然界の素材を使った実験など協力しています。

また、「甘梅の醗酵抑制方法」の技術相談も受けており、機構の濃縮技術の知見を活かして地元産の野菜を使った新商品開発の取り組みも始めました。団らんの中で生まれる発想をもとに、だいこん、たまねぎ、じゃがいも、柿等々試行錯誤しながら、子供からお年寄りまでおいしく食べられる新商品の開発を目指しています。機構では、「特産品として町おこしになれば」と夢を膨らませている達人の皆さんを、今後も引き続き支援していきます。



栃もち製造風景

【技術成果の展開】各地で展示会開催！！



北陸技術交流テクノフェア

平成22年度も福井県内の展示会を中心に、大阪、富山、金沢など様々なところでブース展示をさせていただきました。この活動も数年継続しているためか、お声を掛けてくれる方が多くなり、また、当グループの活動である「原子力技術の展開活動」について興味を持たれる方が増えてきていることが実感できるものでした。

今年度の展示会では、放射線照射技術について質問される方が多かったですように感じました。放射線照射技術が医療分野を始め、自動車産業(ラジアルタイヤ、断熱材等の内装部品の製造、耐熱電線の被覆など)や、福井県では伝統産業の一つである和紙分野にも利用されていることなどをご説明させていただきました。ブース内には、一例として、放射線照射技術を利用して作られた「高吸水性ハイドロゲル」を和紙に含浸・塗工することで消臭成分を和紙に定着させた「高機能性消臭和紙」や、手漉き和紙の原料と混合し、型に被覆したりすることで作られた「骨組みの無い和紙照明」などの製品を展示し紹介いたしました。これらは、当機構高崎量子応用研究所の協力を得ながら、企業との共同研究で実現したもので、来場者の方々が和紙と原子力とのコラボレーションに一様に驚かれていました。また、「～のような事はできないのか?」、「～には利用できないか?」などの問い合わせもあり、更なる広がりが期待できそうです。



しんきんビジネスマッチングフェア



丹南産業フェア

・○○一口メモ○○

「輸血用血液」や「注射器」などの滅菌にも放射線照射技術が使われています。また、日本ではなかなか浸透していませんが、海外では食品への照射も進んでいます。

独立行政法人 日本原子力研究開発機構
 敦賀本部 経営企画部 技術展開推進Gr
 担当一 中島 準作 (桑原 由主)
 〒914-8585 福井県敦賀市木崎65-20
 TEL: 0770-21-5033 FAX: 0770-25-5782
<http://www.jaea.go.jp/>